

平成 29 年 8 月 10 日
宮城県農業振興課
(農業革新支援センター)
TEL : 022-211-2837

日照不足と低温に伴う農作物の技術対策情報

I 東北太平洋側では、8月1日頃から日照時間の少ない状態が続いており、この状態は、今後10日間程度は続く見込みです。下記の農作物等の技術対策により、農作物の管理等の対策を徹底して下さい。

東北太平洋側の日照不足と低温に関する東北地方気象情報 第1号

東北太平洋側では、8月1日頃から湿った東よりの風の影響で日照時間の少ない状態が続き、8月1日から9日までの日照時間は平年の50%を下回る所が多くなっています。

この状態は、今後10日間程度は続くでしょう。また、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った空気の影響を受けやすく、東北太平洋側の北部を中心に今後10日間程度は平年に比べ気温の低い状態が続き、かなり低くなる所がある見込みです。

農作物の管理等に十分注意してください。

(平成29年8月10日11時00分 仙台管区気象台発表)

II 農作物等の技術対策

○ 共通事項

ほ場の見回りをこまめに行い、農作物の変化を見逃さないようにするとともに、多湿で病害が発生しやすいため、予防や初期防除(農薬登録に基づき)に努める。

1 水稻

- (1) 穂揃期以降は間断灌水とし、上位葉や根の活力を維持して登熟の促進に努める。
- (2) 環境保全米等に取り組んでいる生産者は、病害等の発生により計画外の防除を実施する場合、事前に所管するJA等に相談する。

2 大豆

降雨による停滞水で湿害を受けないように明きよや排水溝の補修を行い、排水対策を徹底する。

3 果樹

- (1) この時期の日照不足は、特に来年の花芽の多少に大きく影響するので、不要な徒長枝の剪除、枝吊りや支柱を入れるなどして樹冠内部への日光の透過を良くする。夏期剪定は一気に行くと二次伸長が多くなる場合があるので、数回に分けて実施する。
- (2) この時期曇雨天が続くと計画的な防除が困難となり病害の多発を招きやすいので、週間天気予報等を参考に防除日を決定し、1回当たりの散布量を十分確保した上で徹底した防除を実施する。
- (3) 日照不足や多雨条件から着色より果肉の成熟が進む恐れがあるため、果肉硬度や地色の抜けに注意して適期収穫に努める。

4 露地野菜

排水不良等による生育障害が発生しやすいので、明きょ等の排水対策を講じる。

5 露地花き

湿害を防ぐため排水対策を講じるとともに、倒伏を防ぐため支柱やフラワーネットをしっかり張る。

6 施設野菜・花き

施設内では、病害の発生を抑えるため、暖房機や循環扇を利用して送風や換気に努めるが、雨空の晴れ間に強光と高温にあうと急激に萎れて葉焼け等の障害を起こすことがあるので、遮光や換気を行って気温や葉温の低下を図る。

7 飼料作物

- (1) 雨水が停滞しやすいほ場では、排水溝を整備して排水に努める。
- (2) 浸冠水した場合は、早期の排水に努める。
- (3) 浸水草地は雑草が侵入しやすいため、刈取り高さを 10 cm以上とし、収穫後速やかに追肥して草勢の回復を図る。